

会 議 録

会議の名称	令和元年度（第2回）白岡市総合教育会議
開催日	令和元年10月16日（水）
開催時間	午前10時50分 から 午後0時10分 まで
開催場所	白岡市役所庁舎4階 会議室404
出席者（出席構成員）の職・氏名等	<p>白岡市長 小島卓</p> <p>白岡市教育委員 新井二郎</p> <p>白岡市教育長 長島秀夫</p> <p>白岡市教育委員 山崎美佐江</p> <p>白岡市教育長職務代理者 牛田文子</p> <p>白岡市教育委員 和田玲子</p> <p style="text-align: right;">（計：6人）</p>
欠席者（欠席構成員）の職・氏名等	なし （計：0人）
事務局職員の職・氏名	<p>副市長 野口仁史</p> <p>学校教育部長兼教育総務課長 河野 彰</p> <p>生涯学習部長 篠塚 淳</p> <p>参事兼教育指導課長 石崎昌稔</p> <p>参事兼学び支援課長 阿部千鶴子</p> <p>いきいき教育課長 中太隆明</p> <p>総合政策部長 上ノ原彰宏</p> <p>参事兼企画政策課長 齋藤 久</p> <p>企画政策課 主幹 細井唯行</p> <p>企画政策課 主査 高垣真希</p> <p>教育総務課 課長補佐 高澤憲司</p> <p>教育総務課 主査 木村真由美</p>
その他会議出席者	傍聴 11名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 大山小学校学級編制に対する今後の在り方について (2) 白岡市子ども読書活動推進計画の策定について 4 その他 5 閉会

配布資料	<ul style="list-style-type: none">・ 会議次第・ 大山小学校学級編制に対する今後の在り方について 資料 1・ 白岡市子ども読書活動推進計画の策定について 資料 2
------	--

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
上ノ原部長 (総合政策部)	1 開会 上ノ原総合政策部長の進行により会議が開会した。
小島市長	2 挨拶 小島市長から開会挨拶が行われた。
小島市長	3 議事 小島市長が議長となり、議事進行が行われた。
石崎参事兼課長 (教育指導課)	(1) 大山小学校学級編制に対する今後の在り方について 教育指導課から資料1に基づき説明が行われた。
C委員	(質疑) 学びの多様性とは、具体的にはどのようなことか。
石崎参事兼課長 (教育指導課)	学びの多様性とは、学校が少人数だと細やかな指導が可能である反面、いろいろな友達との関わりが少なくなることや大人数だと集団生活の中でリーダー性や集団の中での役割を身につけることができるなど、少人数と大人数ではできることが異なる点があるということである。 ただ、大山小学校においては、一人一人に目が届き、きめ細やかな教育が可能であるところが優れている点であると考えている。
C委員	大山小学校の児童数の減少による複式学級の検討について、人数が少ないことが良くないことで、人数が多いことが良いこととして話が進んではいけないか。子供の頃に、少人数で過ごしたことで将来的に影響があるのかが疑問である。 学びの多様性の中には、少人数で過ごした経験も含まれるのではないか。 大山小学校は、大山地区になんらかの形で残すべきであると考え。万が一、他の小学校と統合ということになると、そこで育まれてきた地域の文化等が消滅し、地域が衰退してしまう危機感がある。大山小学校の様々な魅力を市内外に発信できるようなものを見つけられるといいのではないか。

長島教育長	<p>児童数が少ない学校のプラス面としては、教員が児童の名前と顔が全員一致することである。子供たち同士も同様である。すると、体調不良やけんかなどの変化に気づき対応をすることができる。担任だけでなく他の教員も、担任外の児童と接することができ、児童を褒めたり注意をしたりすることができる。</p> <p>授業においては、大人数の中では埋没し自分の意見が言えない児童もいるかもしれないが、少人数であれば一人一人の意見を聞き、他の児童と意見交換を行わせるなどの指導ができるため、学びの多様性はあると考える。</p> <p>小さな学校でも、中学校に行くと部活の部長や委員会の委員長になる子供がたくさんいるような学校もある。声をかけ、目をかけ、手をかければ子供は伸びる。</p> <p>大山小学校は、夢の学校である。先生たちにも夢の学校としての自負心を持って教育に当たっていただきたいと考えている。自分たちの学校の特色を生かしPRを行い、児童を集められるようになってほしいと思っている。</p>
A委員	<p>現在、市費で教員を採用することで複式学級を解消し、学級運営を行っている。大山小学校の見学を行うと児童がいきいきとしており、学力、教育とも素晴らしいと感じている。</p> <p>財政的な負担はあるが、他の学校との公平性の面からも市費で教員を採用していただきたいと考えている。</p> <p>今後、児童数の減少が見込まれるのであれば、減少させないために市、地域、保護者等が協力することが必要である。</p> <p>大山小学校のメリットを強く打ち出し、魅力をもっとPRすべきである。</p> <p>また、小規模特認校としての指定を検討し、学区外からも児童が通学できるようにするとよいと思っている。</p>
石崎参事兼課長 (教育指導課)	<p>大山小学校の児童の学力が向上しているという現状があるので教育委員会としては、各学級に一人の担任がついて児童を指導できる体制が望ましいと考えている。</p> <p>財政的な負担もあるが、他の学校との公平性や大山小学校の現状などからも、子供たちの教育のため各学級に一人の担任を配置したいと思っている。</p>
A委員	<p>今後、そのような方向で進んでいくことを願うところである。</p> <p>色々な事例を打ち出し、魅力のある活動や県内の小規模校との交流など様々なことを行ってもらいたい。</p> <p>そして、今後も、皆さんと一緒に話し合いを行っていききたい。</p>
C委員	<p>大山小学校の児童数が少ないことは、子供たちの責任ではない。子供たち</p>

<p>石崎参事兼課長 (教育指導課)</p>	<p>は、児童数の多い少ないに関わらず個性があり、それぞれの良さがある。そして、周囲の環境により育てられていくものである。</p> <p>少人数であると前置きをして子供たちと接することは、遠慮いただきたい。児童数が多い少ないではなく、子供たちがどれだけ頑張っているのか、先生たちがどれだけ頑張っているのかを見てもらいたい。</p> <p>今年、大山小学校の運動会を見学し、5・6年生のリーダーシップが強いということを実感した。特に、低学年の面倒をみるという縦割りでの活動を見て、これは大山小学校ならではの良さではないかと感じた。大山小学校の卒業生は、中学校でもリーダーシップを発揮し、生徒会活動に参加しているという話も伺っている。</p> <p>小規模校だからできることや育つことはたくさんある。大人数の集団ではなくとも、学びの多様性は十分にあると感じた。</p>
<p>B委員</p>	<p>大山小学校の児童数を増やし、1学年1学級での学級運営ができるようになるためには、市や教育委員会だけでなく、広く様々な人の意見を聞くための検討委員会の設置が必要ではないか。</p> <p>世帯数を増やし、児童数を確保することは難しい部分がある。県営白岡下大崎住宅が建設された経緯はどうであったか。</p> <p>小規模特認校としての特色は、勉強に関する部分が大きいのと思うが、文化や運動を特色としてはどうか。例えば、陸上が強いの、吹奏楽が素晴らしいなど、勉強以外の特色を出していくことで、近隣から大山小学校へ通学したいという児童が増えるのではないかと考える。</p>
<p>小島市長</p>	<p>いくつかの提案や意見があったが、事務局から一つずつ回答をお願いしたい。</p>
<p>齋藤参事兼課長 (企画政策課)</p>	<p>県営白岡下大崎住宅は、25年から30年程前に県民のための住宅供給を目的として建設されたものである。現在、51戸中38戸が入居しており、入居率は74.5%となっている。また、高齢化率については、市全体の高齢化率27.0%のところ県営白岡下大崎住宅は25.3%となっている。</p> <p>この県営白岡下大崎住宅に住んでいる子供たちは、現在、大山小学校へ通学しており今後も通学することとなるため、引き続き入居率100%を目指し、可能な限り働きかけを行っていきたいと考えている。</p>
<p>石崎参事兼課長 (教育指導課)</p>	<p>大山小学校の児童数を増やすための検討委員会を立ち上げてはどうかとの話があったが、教育委員会としては学校、地域、保護者、市で話し合うことが必要と考えている。</p>

B委員	<p>市だけでは進めることができないことであるため、地域や保護者等との情報共有を行い、話し合いを密にする必要がある。</p> <p>今後は、検討委員会や公聴会などを検討していく。</p> <p>大山小学校ならではの魅力のある特色が、教育に生かせるよう検討していただきたい。例えば、特技のある教員を人事異動で配置するなどし、他校の児童が通学したいと思ってもらえるような学校にしていってもらいたい。そして、その結果が数年後に成果として現れてくるとよいと考える。</p>
D委員	<p>児童数が0になってからでは、検討も難しいかもしれないが、児童数が減ってきた今だからこそ大山小学校の今後について検討を行えば、白岡の宝物として大山小学校が残っていくのではないかと考える。</p> <p>市内には児童数が伸びている学校もある。市内の児童の移動ということであれば小規模特認校という施策は有効ではないか。</p> <p>保護者目線でいうと、市内でも住んでいる地域によっては、大山小学校の場所もわからないという人もいる。大山小学校への関心は地理的なことを含めて低いと感じることがある。認知度を上げるには、大山小学校の情報をオープンにし、足を運んでもらえるようにする必要がある。大山ランタンナイトのようなイベントがあると人が集まる。未就学児のいる家庭をターゲットとしたイベントの開催など、大山小学校を知ってもらう機会があるとよい。例えば、高校や大学のオープンキャンパスのように、市内の保護者に大山小学校について、知ってもらうことが大切ではないか。</p> <p>学校の特色という話があったが、通学に当たり送迎等で保護者の負担はあるが、それでも通学させたいと思える魅力のある特色があれば市内の児童が通学することも考えられると思う。</p> <p>また、幼稚園のお泊り保育や芋掘りなどのイベントを大山小学校の近くで行うなど、未就学児の家庭を対象に幼稚園と連携できるような仕組みや6年間の通学ではなく山村留学のように1年だけでも通学することができるような仕組みなど、保護者が我が子を大山小学校に通学させたいと思ってもらえる仕組み作りが児童数を増やす近道ではないかと考える。</p>
小島市長	<p>委員の皆様からは、学校からの情報発信、学校の特色作り、幼稚園との連携などの意見をいただいた。事務局の考えはいかがか。</p>
河野部長兼課長 (教育総務課)	<p>大山小学校は、現在でも様々な学校教育を行っているが、それらの発信が不足していると感じている。まずは、それらを掘り出すことから始めていきたいと考えている。</p> <p>また、大山小学校は少人数教育であるため、学業・スポーツの面でも個別</p>

	<p>指導が行き届き、小規模校ならではのチーム力が向上しているので、このようなことも含め情報発信をしていきたい。</p> <p>組織という点では、コミュニティスクールが始まってきている。大山小学校を含む地域についても、このような組織を活用しながら、情報発信や学校の特色作りといった点についても、意見をいただきたいと考えている。</p> <p>まずは、複式学級とならないようにしていきたい、それには学校の魅力を発信し、一人でも多くの児童が大山小学校で学びたいと思ってもらえるよう検討をしていきたい。</p>
小島市長	<p>忌憚のない意見をいただいたが、保護者への意見はいかがか。</p>
C委員	<p>自分の子供たちの教育のことなので保護者にも参加してもらわなくてはならないと考えている。また、このような場で、地域のことについて考えていただいていることに感謝をしなければいけない。</p>
小島市長	<p>議題1については、まずは、大山小学校の少人数教育という特色を打ち出しながら更なる魅力の向上に努めていただくとともに、市と教育委員会が、児童数の増加に向けた取組みを検討、推進していくこととしたい。</p>
阿部参事兼課長 (学び支援課)	<p>(2) 白岡市子ども読書活動推進計画の策定について 学び支援課から資料2に基づき説明が行われた。</p>
A委員	<p>(質疑) 今の子供たちは読み聞かせはたくさん受けているが、一人読みにつながっていないのが現状である。子供たちが自分で本を読む楽しさを知るためには、大人の橋渡しが必要である。今後とも、このような計画を進め、事業を推進していただきたい。多くの子供たちにこもればの森の図書館の本が借りてもらえるように、また、多くの子供たちに一人読みの楽しさを知ってもらいたいと考えている。</p>
小島市長	<p>その他に意見がないようなので、以上で本日の議事は全て終了とする。 円滑な議事進行に御協力を賜り、感謝申し上げます。</p>
齋藤参事兼課長 (企画政策課)	<p>4 その他 次回の総合教育会議の開催について（事務局説明）</p>

<p>上ノ原部長 (総合政策部)</p>	<p>5 閉会 上ノ原総合政策部長の閉会宣言により終了 【12:10 終了】</p>
--------------------------	---

大山小学校学級編制に対する今後の在り方について

1 大山小学校の児童数推移見込み 令和元年10月1日現在（太枠が複式学級編制）

	児童 総数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	通常 児童	特支 児童	複式 学級
令和元年度	58	6	9	13	5	8	14	55	3	1
令和2年度	53	10	7	9	12	4	8	50	3	2
令和3年度	56	11	10	7	9	12	4	53	3	2
令和4年度	57	6	11	10	7	9	12	55	2	1
令和5年度	50	5	6	11	10	7	9	48	2	1
令和6年度	43	4	5	6	11	10	7	43	0	1
令和7年度	40	4	4	5	6	11	10	40	0	2

※複式学級：小学校では2年から6年で連続する学年の児童数が16人以下の場合、複式学級が編制される。1、2年生の場合は8人以下で編制される。

2 大山小学校の児童数の現状と課題

大山小学校の児童数は減少傾向にあり、令和6年度から、50人を割り込む状況が見込まれます。複式学級編制をいくつかの学年で行わなくてはならず、令和2年度、令和3年度及び令和7年度に2学級となることが見込まれています。

平成29年度から3年間、複式学級編制の対象は1学級で、これに対し市費負担教職員を配置することにより、複式学級を解消してきましたが、令和2年度からは複式学級編制の対象は2学級が見込まれています。

児童数の減少は、教育活動にも少なからず影響を及ぼします。きめ細やかな指導はできませんが、子供同士の関わりが減少し、学びの多様性を育むことが難しくなることが懸念されます。このような状況では、学校の統廃合や複式学級の実施なども考えられるところです。

しかしながら、大山小学校は地域の拠点として130年以上の歴史があり、欠くことのできない学校です。まずは、児童数の増加を図る施策等を検討し、学校の存続及び複式学級にならないようにすることが先決と考えます。この大きな課題に行政のみならず、学校、保護者、地域の方々と共に取り組んで行くことが必要です。

3 児童数を増加させるための他市町での施策

【羽生市の事例】

平成22年度から自然豊かな歴史と伝統のある1校を※1「小規模特認校」に指定し、市内全域から一定の条件のもと入学を認めています。通学については保護者の負担と責任において行うこととしています。平成31年度現在、複式学級は、解消されてはいません。

※1 小規模特認校…小規模校の教育活動の一層の活性化を図るとともに、特色ある教育活動を展開している小規模校において教育を受けさせたいと希望する児童・保護者に通学区域外からの入学を認めるもの。

【本庄市の事例】

平成30年度から1校を「小規模特認校」に指定し、市内全域から一定の条件のもと入学を認めています。学校見学や体験入学の期間を設け、教育委員会、学校長の面接を経て入学を許可しています。令和2年度1～6年生で各学年、若干名を募集しています。児童の通学は保護者が責任を持って行うこととしています。なお、この小学校は、平成30年度から複式学級を解消しています。

【越生町の事例】

小学校が2校あり、山間部の小学校が児童数の減少により複式学級編を余儀なくされてきました。これまで通学区の弾力化で対応していましたが、平成30年度から「小規模特認校」に指定し、町内（街部）の学校から指定校の変更を認めました。

その結果、平成31年度現在、13人の児童が街部から山間部の学校に通学しています。この児童数増加により複式学級編制を解消することはできませんでしたが、今後解消の見通しができたようです。児童の送迎については、市がスクールワゴンを準備し、保護者から協力金を徴収して運行しています。

4 埼玉県内複式学級編制を実施している市町と解消している市町（平成31年度）

【複式学級編制を実施している市町】

上尾市	1校	2学級	秩父市	2校	2学級
飯能市	2校	3学級	皆野町	1校	2学級
吉見町	1校	2学級	小鹿野町	1校	1学級
ときがわ町	1校	2学級	神川町	2校	5学級
行田市	2校	3学級	羽生市	1校	1学級（東部地区3校、4学級）
埼玉県内	合計	14校、23学級	で複式学級編制を実施		

【複式学級編制を解消している市町】

越生町 1校 1学級、久喜市 1校 1学級、白岡市 1校 1学級

埼玉県内で合計3校、3学級で複式学級編制を解消しています。また、1市町で2学級解消している市町村はありません。

5 複式学級と複式学級解消した場合の比較

対応方法	メリット	デメリット
複式学級	<ul style="list-style-type: none">市の財政負担が比較的少ない。2学年編成で人数が多くなるため、教科によっては、より授業が進めやすい場合もある。また、交流も生まれ、人間関係が深まり、社会性が身につく。	<ul style="list-style-type: none">教員による指導時間が複数の学年に分散するため、きめ細かい指導が難しくなったり、教員に過度の負担がかかる恐れがある。低学年、中学年、高学年の区分をまたぐ複式が想定され、教育課程が組みづらく、難しい。児童から見た場合、複式となる年と単学級の年とがあり、児童が混乱するおそれがある。
複式学級 解消	<ul style="list-style-type: none">安定した運営が可能。他の学年と授業展開の差異がない。特定の教員に過度の負担がかからない。	<ul style="list-style-type: none">市の財政負担が比較的大きい。人が定着しにくい可能性がある。（1年更新のため、毎年変わる可能性がある。）

6 複式学級を実施する際の工夫（他市の対応）

一人の教師が2つの学年の担任を受け持ちます。また、補助教員をつけることで学級をサポートしています。具体的には、市費負担非常勤講師（退職教員）を1～2名配置し、教科指導を担当させています。また、教務主任なども加わり、主要教科については、複式にせず、学年ごとに授業を進めています（行田市、羽生市等で実施）。

7 今後の大山小学校の在り方及び学級編成の解決策等について

(1) 児童数増加に向けた取組について

今後、児童数増加に向けた様々な取組を実施し、複式学級とならないようにする必要があります。

そのためには、まず少人数教育という特色を強く打ち出し、「大山小学校に通わせたい」と思わせる特色ある教育に取り組み、更に学校の魅力を高める必要があります。

その上で、「小規模特認校」の指定も視野に入れる等、様々な方法を議論し、対応を考えていきます。

(2) 複式学級編成の解消について

市・教育委員会としては、これまでどおり大山小学校を全面的に支えていく考えに変わりはありません。令和2年度からは複式学級編成2学級が見込まれていますが、児童数増加に向けた様々な取組を今後実施していくこの段階では、①白岡の将来を担う子供たちの学力確保、②担任や教務主任等の負担増、③他の学年や他の小学校との公平性を考慮すると、財政負担や人材確保といった課題はあるものの、今までどおり※2「常勤の教員を市費負担で配置し学年別授業を展開する」ことで複式学級の解消を図っていく考えです。

(3) 今後について

児童数増加に向けた取組の状況や児童数の推移などについて、学校、保護者、地域の方々と情報共有を図り、子供たちのために大山小学校はどうあるべきかを共に考えていきます。

※2 「県費負担教職員の再任用希望者を出来る限り県と同じ条件で、市費負担による常勤職として雇用し配置する」こととした場合

2名配置し、2学級複式を解消すると、経費は、年間575万円×2名＝約1,150万円となる。

白岡市子ども読書活動推進計画の策定について

1 目的

次代を担う子供たちが、自主的に読書に親しみ、豊かな人間性を育くむことを目的とする。家庭、地域、学校等が連携して子供たちの読書環境を整えるための施策を総合的に推進するため、本計画を策定する。

国	埼玉県
第4次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画	埼玉県子供読書活動推進計画(第4次)
<ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取組を推進 ・友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取組を充実 【読書会、図書委員、「子ども司書」、ブックトーク、書評合戦(ビブリオバトル)等の活動】 ・情報環境の変化が子供の読書環境に与える影響に関する実態把握・分析 【スマートフォンの利用と読書の関係等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭における子供の読書活動の推進【「ブックスタート」など乳幼児を持つ保護者向け事業の実施】 ・地域における子供の読書活動の推進【県内公立図書館における児童書の貸出】 ・学校等における子供の読書活動の推進【学校図書館を活用した授業の計画的実施】 ・子供の読書活動に関する啓発・広報の推進 【「子ども読書の日」関連行事の実施】 ・子供が読書に親しむ推進体制の整備 【県内市町村の「子ども読書活動推進計画」の策定】



◎ ポイント

- ① 発達段階に応じた取組により、読書習慣を形成
- ② 友人同士で行う活動等を通じ、読書への関心を高める

2 基本的な指針

子供たちが主体的に学び合えるようボランティア団体や学校と連携して、環境整備を図り、読書活動を推進する。

3 計画の期間

令和3年4月1日から令和8年3月31日まで

4 近隣の策定状況（平成31年3月末現在）

策定済・・・さいたま市、春日部市、久喜市、蓮田市

未策定・・・幸手市、宮代町、杉戸町

5 今後のスケジュール（予定）

令和元年10月～令和元年11月	アンケートの実施
令和元年12月～令和2年3月	アンケート結果の分析・基本方針骨子の作成
令和2年4月～	策定委員会の設置
令和2年4月～令和2年11月	計画素案の作成
令和2年12月～令和3年1月	議会報告①、パブリックコメントの実施
令和3年3月	定例教育委員会報告・議会報告②

6 アンケートの概要

調査内容 各調査10問程度

【幼児（年長）の保護者】現在の読書活動の現状を把握するとともに、保護者と子供の読書習慣を形成するために必要な環境づくりについて分析する。

【小・中・高校生】現在の読書活動の現状を把握するとともに、本に親しむために必要な環境づくりについて分析する。

期 間 令和元年10月22日（火）から11月19日（火）まで

対 象 幼児（年長）の保護者 410名、小学校5年生 453名、
中学校2年生 413名、高校2年生 182名の計1,458名